

# サミット宣言

永年にわたり「日本文化」の中心的な役割を果たしてきた「きもの文化」は、今日史上最大級の危機に直面している。

この「きもの文化」を次世代に伝承し、これからの「きもの産業」の発展を図るには「産地」「流通」が一丸となり、現代の消費者ニーズにあった和装産業の再構築を行う必要がある。

今年「伝統的工芸品月間国民会議全国大会」が開催される日本の伝統産業・文化の中心である京都から次のとおり「サミット宣言」を発信する。

1. われわれは「学」「気」「喜」の精神で「和装文化」を発信し、伝承に努める
  - (1) 古のものづくりに「学」び「気」を込めて消費者に愛され「喜」こばれる新しいものづくりに邁進する。
  - (2) 21世紀型の新しい「産地」「流通」システムを構築し、和装産業の振興に努める。
  - (3) 不況脱却を目指し、常に消費者の目線で「生産者」「流通」が連携し「ヒット商品」を開発、マーケット開拓に努める。加えて「後継者育成」「技術伝承」「関連工業振興」「枯渇化道具類保全」に努める。
  - (4) 「仕入れて商い」「仕入れたら支払う」「仕入れたら返品しない」精神で「産地」「流通」の健全化を図る
  - (5) 「リスクある仕入れ」に徹し「催事販売を慎み」「店舗販売」を中心に商うことに努める。
  - (6) 和装業界人は、率先して「きもの着用」に努める。
2. 和装産業・伝統産業をはじめとした中小零細企業は、日本経済を支える根幹であり「貸し渋り・貸しはがし」に対する具体的施策を講じられるよう強く要請する。

平成21年10月29日

きものサミットIN京都・西陣開催委員会